

10月



園だより

令和6年10月1日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 10月のねらい」
同時協力

「頑張った道のり」

園長 佐藤和順

先月に引き続き、佛教大学教育学部幼児教育学科1年生の授業の課題として提出された、園だよりの今月のことばを紹介させていただきます。木村志穂里さんの「今月のことば」です。

夏の暑さも和らぎ、晴れ渡る空に秋を感じる季節になりました。園から見える山の色の移り変わりや虫の声など季節の生き物たちにも子どもは秋を感じ取っています。そしてまもなく開催される運動会も、「スポーツの秋」という言葉に代表されるように子どもが秋の訪れを体感できる大切な行事です。

今月の保育の目標は、「同時協力（どうじきょうりよく）お互い助け合う」です。一人ではできないことも二人ならできます。二人ではできないことも、大勢ならできます。皆で助け合うことによって思いもかけない大きなこと、経験ができることを学んでほしいと思っています。

運動会は「同時協力」にあふれています。団体種目の練習中は、子どもたちが友だちや保育者と、どうしたら上手くいくか話し合う姿がよくみられます。そして運動会当日、子どもたちは周りの友だちと「協力」して、時には自身の苦手な点を助けてもらい、互いに得意を伸ばし合い、課題や目標を乗り越えていきます。

個人種目でも同様です。一人で種目に向き合っている中で友だちの声援が聞こえれば、なんだか力が湧いてきます。そのときに感じた心や胸の温かさで、今度は自分が仲間を応援したいと思うようになります。そこに協力が生まれ、課題に向かっていく力が育まれます。このように自分だけではできなかったことが、友だちと力を合わせることでできた経験は「同時協力」の楽しさやうれしさを実感できるチャンスなのです。

運動会本番は一度きりですから、成功する場合もあれば失敗することもあります。「練習ではできたのに」と肩を落とす子どももいるでしょう。しかし、大切なのは本番に向かって頑張ってきた道のりです。たとえ本番で失敗しても、練習した日々の頑張りにこそ大きな意味があるのです。そのことに子どもが自分自身で気づき、新たなことにチャレンジする原動力となるよう見守っていきたくと思っています。

この秋の運動会が子どもの心や身体の一層の成長に繋がり、子ども自身が自らの成長を実感できる機会となることを心から願っています。またその経験が、子どもの充実した園生活に発展していくように私たち大人も見守りたいと思います。

